

のぞみは高く

豊川小・4 平野 琉輝

ぼくは、夏休みの前に本宮山に登りました。

なぜ登ることになったのかというと、中学生のいところが学校の行事で本宮山に登り、すごく楽しかったとほうこくしてくれたからです。そこで、お母さんが今度みんなに登りに行こうと計画してくれました。しかし、ぼくは運動が苦手で虫もきらいなので、登れるか心配でした。

当日は朝五時に起きておにぎりを食べ、六時から本宮山に登り始めました。お母さんとお兄ちゃん、中学生と小学三年生のいとこの五人で登りました。本宮山は、一丁目から五十丁目まであり、五十丁目から少しはなれたところに山ちようがあります。一丁目から石の階段が続いて、ぼくとお母さんはすでにへとへとになっていました。お母さんが、

「見上げるたびに、地ごくだね。」

と言っていて、ぼくもその通りだなと思いました。二十一丁目まで登るとベンチがあったので、一度気合いを入れるために休けいをしました。そこから進む道を見たら、ふ安になりました。なぜなら、そこはほぼ岩をよじ登るような道だったからです。お兄ちゃんといとこはぴよんぴよんとはねるように登ってしまいました。ぼくとお母さんは二人ではげまし合いながら進みました。

とてもつかれていたけど、なぜか気分がいいと感じることがあり

ました。それはあいさつです。知らない人ばかりだったけど、すれちがうたびに、

「おはようございます。」

「こんにちは。」

「がんばってね。」

と、いろんな人が声をかけてくれたので、とても気分がよかったです。とてもがんばれました。そして、すごく暑かったけど、四十丁目をすぎたあたりから水の音が聞こえたので、すずしく感じました。ここから階段だとでこぼこな道が続き、足のうらがとてもいたかったです。お母さんが、

「きつと山ちようはけしきがよくて、達成感があるから気持ちいいだろうね。」

と言っていました。五十丁目に近づいてくると、すれちがう人が、

「あと少しだよ。」

と教えてくれました。最後の力をふりしぼり、五十丁目にたどり着いたときには、二時間かかっていたいました。そこから山ちようまで少し歩きました。山ちようから見るとけしきは最高でした。見晴らしがとてもよくて、町がすごく小さく見え、空気がおいしくて、達成感を味わうことができました。

ぼくが本宮山と聞いて、一番初めに頭にうかんだのは学校の校歌でした。ぼくの小学校の校歌に、

「本宮山の気高さを、朝な夕なあおぎみて、のぞみは高く元気よく

という歌があります。今回本宮山に登って山ちようで感じた気持ちだなと思いました。登る前はすごく大きい山だと思っていましたが、

でこぼこな道やたくさんの階だん、けわしい道を進んでたどり着いたところから見るけしきは、いろいろな物が小さく見え、たくさんの物が見えました。本宮山に登るように、いろいろなゆめに向かって元気ががんばることが校歌になっているのだとわかりました。

行きはすぐ大変な道のりだったけど、帰りの階だんはすいすいと降りることができ、

ふしぎな気持ちになりました。そして、たったの一時間で下山することができました。ふり返ってみて、体力的にはまだまだむずかしいところもあったので、中学生になるまでもっともっと体力をつけたいと思います。登ったあと、お兄ちゃんや中学生のいところに、

「何がそんなにつかれた。」

「足もぜんぜんいたくないし、体力なさすぎだろ。」

と言われて、とてもくやしかったです。しかし、ぼくの大切にしていることは「のぞみは高く」であるので、目ひようをもっているいろいろなことにチャレンジしていこうと思います。